

栃木県教育委員会定例会会議録

令和2(2020)年7月7日(火)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員会室に招集した。

1 出席者(教育長及び委員)は次のとおりである。

1 番(教育長)	荒川	政利
2 番	鈴木純	美子
3 番	工藤	敬子
4 番	金子	達也
5 番	陣内	雄次郎
6 番	吉澤	慎太郎

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教育次長	北條	俊明
教育次長	中村	千浩
総合教育センター所長	大島	政春
総務課長	伊澤	純一
施設課長	齋藤	淳
義務教育課長	柳田	伸二
高校教育課長	吉田	眞樹
特別支援教育室長	松本	美智代
生涯学習課長	阿久津	守男子
スポーツ振興課長	高橋	貴子
総務主幹	小平	知久

3 午前9時30分、教育長及び委員5名が出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に2番鈴木委員を指名した。

5 教育長は、本日の議案等のうち、第1号議案から第3号議案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい旨を諮ったところ、全出席者の賛成により非公開とすることに決定した。

6 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

7 報告

(1) 令和2(2020)年度6月補正予算(2)について

教育長から説明を求められ、総務課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 前回の定例会でも発言させていただいたが、ICTの環境整備に補正予算

をつけていただいて、拡充ということがみえてきたが、ICTの整備においては、タブレット等の購入の以前に、どういうシステムで統一感を持って行くかというのを、今行う必要がある。これでは、それぞれの学校ごとのシステムを支援していくという流れになるのかと思うので、ある程度、県が推奨する形で統一感を持ってやっけていかないと、先生が異動するたびに新しいシステムを覚えなくてはならなくなり、小中高でのデータの連携やこれから横のつながりの学びということでも、ある程度統一感をもっていくことが大切である。また、いつかどこかでこのシステムでは不便だとなったときには、一からやり直さなければならないという懸念もあるので、この時期にそのあたりの整備について、県としてどのような考えかを伺いたい。

〔事務局〕

- ・ 今回のICT関係については、2ページの2番にある「学校ICT化プロジェクト推進事業費」の予算がついているが、教育委員会内にプロジェクトチームというのを編成し、義務教育課、高校教育課、総合教育センターなど10名ほどのメンバーで議論しながら、一体感を持って、円滑に物事が進むように、そういったこともひとつひとつケアをしていくこととしている。先月から活動しており、それを十分に活用していきたいと考えている。

〔委員〕

- ・ 十分に話した結果、統一性を持たせようという考え方はあるのか。

〔事務局〕

- ・ 義務でいうと、市町ごとにいろいろな考え方があるので、市町の調整会議を開催してきた。今後は、それも含めて市町間の推進連絡会議を開催しながら、統一性を高めていきたいと考えている。

〔教育長〕

- ・ ICT化の波を戻すことはできないし、これを活用していくということが、日本の教育あるいは、栃木県の教育に求められていると思う。栃木県では、今年度、校務支援システムを立ち上げており、そういった部分も含めてICT化を県の教育の重要なツールとして活用できるように取り組んでいきたいと考えているので、御協力をお願いしたい。

〔委員〕

- ・ スクールサポートスタッフについて下野新聞に掲載されていたが、今の教職員の負担軽減策として考えると、20億円は活きた予算になると感じた。

〔教育長〕

- ・ まずは、人材を市町と協力して確保していきたい。

〔委員〕

- ・ 新型コロナの感染症対策として、学校の先生は授業後教材の準備や消毒作業など多忙感の中で頑張っている。なかには、PTAの有志が協力しあって消毒作業などもしているところである。先生以外にも

支援員など増やしていき、先生と作業分担をしながら、学校の環境維持をしていただきたいと思います。

さて、7番の「中学校・高等学校スポーツ代替大会開催事業費」の中で、事業主体のうち、高野連の次に競技団体等と記載されているが、現在、開催が確定しているところがあれば、教えてほしい。

〔事務局〕

- ・ 現在、高野連は独自の大会を開催決定。それ以外の競技は競技団体が中心に検討している。高校ではテニス等の十数競技を予定、中学校はサッカーなど数競技を競技団体ごと行うほか、地区ごとの大会を行う準備を進めている。

〔委員〕

- ・ 決定後、公表されるのか

〔事務局〕

- ・ 正式に開催期日等が決まれば、公表したい。

(2) 令和2(2020)年度中学校等卒業者の進路状況調査報告書について

(3) 令和2(2020)年度県立高等学校等卒業者の進路状況調査報告書について

教育長は、関連があるので報告1及び報告2について、一括して説明を受ける旨を告げた。

教育長から説明を求められ、総合教育センター所長及び特別支援教育室長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔委員〕

- ・ コロナの影響が出てくるのはこれからなので、次回からの分析については、ぜひ慎重にお願いしたい。その変動の中に、子どもたち若しくは保護者たちのおかれている深刻な状況が隠れている可能性があるため、そういったことも勘案しながら、これまでの分析とは違う視点での分析をよろしくお願ひしたい。

〔教育長〕

- ・ 来年は、新型コロナウイルスの様々な影響が出てくると思うので、そういった点について、しっかりと分析を行っていく。

〔委員〕

- ・ 中学生の進路状況について、3ページで「県外の高校への進学者」が、1,275名ということで7パーセントを超えているが、群馬県、茨城県と比べて、県外への流出率はどうか。これだけの子どもたちが県外へ流出していることについて、どのような分析及び見解があるのかを伺いたい。

〔事務局〕

- ・ 本調査においては、他県の流出率は把握できていない。

[教育長]

- ・ 県外への流出率は、昨年よりは少し減っている。群馬県や茨城県の県立高への流出が多く、一部東京への流出もある。

[事務局]

- ・ 毎年度、秋頃に隣接県と情報交換を行い、それぞれの人数等の確認をしている。本県に近い群馬県や茨城県の流出の状況は、年々変わっており、それによって、隣接している市町でも、それぞれの市町の中学校、高等学校もなるべく県内の子どもを県内の高校にという動きはある。関東の隣接都県の会議の中では、それぞれの都県の考え等が若干違うところもあるが、栃木県内ではできる限り県外への流出を止めようということで、進路指導をしている。

[委員]

- ・ ある家庭で、例えば、英語に力を入れたいので、茨城県や東京都の高校を考えて移動しているという状況もある。公立の高校はスタンダードで、特色のある教育は私立でというのではなく、今後は公立高校も特色を出していかなければならない時期になっており、高校の普通科についても、これからあり方を考えていかなければならない時代になってきて、それぞれの県立高校の魅力化をやっていかないと、流出や子どもたちの取り込みについて、非常に厳しい時代になっていくのではないかと思う。そのため、国際バカロレアなどのシステムの導入など、思い切った施策の展開をしていかないと流出が止められなくなっていくのではないかと、懸念をしている。

[委員]

- ・ これは中学、高校ということもあるが、それ以前の幼稚園から小学校、小学校から中学校に入学するとき、栃木県から県外、茨城県から入ってくる場合もあると思うが、市町教育委員会と情報交換して、実際どうなっているのかを押さえておくことが必要なのではないか。群馬や茨城の方が栃木の魅力を感じて来るような施策を行っていくことが、結果的には流出を防ぐというのもある。高校がベースになるが、その下の方の状況を把握していくようにすると、いろんな施策につながっていくと思う。

[委員]

- ・ 中学の卒業生のなかで、それまで不登校だった子どもについて「進学」や「その他」など区分の把握はされているか。

[事務局]

- ・ 今回の調査では、把握していない。
- ・ 不登校者でも最近は、「その他」のなかで、学びの機会を得ている状況にある。

[委員]

- ・ 県外から県内に流入している人数は分かれば教えてほしい。

[事務局]

- ・ 本調査においては、正確な人数の把握はしていない。

[委員]

- ・ 中学生の卒業生数が減って、進学者数も 526 人ほど減少している中で、気になるのは、公立高と私立高の特徴というか、魅力というか、保護者として、子供が進路を選ぶときに、この数字でみると県立高全日制では 499 人減少し、私立高全日制は 36 人減少しており、減少率があまりにも極端に違いすぎるので、もっと公立高も地域の特色などを生かしながら、その学校の魅力を引き出していくことで、いろんな生徒が入れるような環境をつくっていただければ、変わっていくのではないかと。公立高も私立高に負けないような工夫をしながら、学校をつくっていただきたいと思います。

[事務局]

- ・ 県立高校全日制では 499 人の減となっているが、今年 3 月の入学者選抜の募集定員が、この 10 年間で 2 番目に多い 9 学級減となっており、前年度と比較すると 360 人の募集定員減となっている。それを含めても、499 人というのは私立高と比べると少し多い数字だというのは実感しており、委員の皆様からご意見いただいた普通科の魅力化という話もあるので、引き続き公立高の魅力化については、いろいろな学校の取組を支援して参りたいと考えている。

[教育長]

- ・ 公立高の魅力化について取り組んでいきたい。

(4) 令和 3 (2021) 年度県立学校入学者選抜における学力検査の出題範囲について教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 大学では、オンライン授業なので、実験や実習はできないが、中学校ではどのようにしているか。

[事務局]

- ・ 実験や実習については、通常授業のなかで実施している。

8 教育長は、第 1 号議案から第 3 号議案については、先の決定のとおり、会議を非公開で審議する旨を告げた。

9 第 1 号議案 栃木県立美術館評議員会委員の任命について
第 1 号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

10 第 2 号議案 栃木県立博物館協議会委員の任命について
第 2 号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。

- 11 第3号議案 第29期栃木県立図書館協議会委員の任命について
第3号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 12 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時33分、閉会した。